

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0177300043), 法人名 (医療法人仁恵会), 事業所名 (認知症高齢者グループホームあさひ (かえで)), 所在地 (芦別市旭町60番地1), 自己評価作成日 (平成29年8月1日), 評価結果市町村受理日 (平成29年12月8日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①ボランティア団体や個人を通じ地域とのつながりを深めている。
②協力医療機関と協力福祉施設が、事業所の近くにあり、行事や研修等の機会を通じ入居者をはじめ職員同士の交流があり、協力関係が保たれている。
③法人が運営している病院職員による施設管理業務、受診時の送迎、施設行事の応援など様々な協力体制が敷かれている。
④職員の離職が少なく、定着している。個々の職員も夫々介護技術や知識の習得に意欲を持っている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou\_detail\_2017\_02\_2\_kani=true&JigyosyoCd=0177300043-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成29年10月31日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Empty table box for external evaluation comments.

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes like staff understanding, user participation, and safety.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は週一回朝礼で唱和し共有を図っているが、10年以上前に意見を出し合い 作り上げたもので内容や文章の簡略化など 見直す時期にきている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、施設行事に地域のボランティア団体の協力を得ている。事業所としては町内会の新年会や親睦会に参加して交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設長は認知症サポーター講座の講師として、地域の方々にカリキュラムを通して支援方法を伝えている。また、市内の学校の職業体験学習にも協力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の議事内容を家族向けのお便りの記事として掲載し、オープンな運営に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の指定機関として受給者を受け入れている。介護保険課の担当窓口と連絡を取りながら利用者の支援を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の採用時のオリエンテーションで説明をし、以後も施設内外で研修を受ける機会を設けている。現在玄関は安全上、理解を得て中から簡単に出られない措置をとっているが1日のうちで状況に応じて時間を決めて開放するなどの提案があり検討を続けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の採用時のオリエンテーションで説明をしている。管理者は施設内研修を実施するとともに「不適切なケア」を含めて日常の職員指導を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者のご家族や民生委員が制度を利用し、実務を通じて学ぶ機会がある。また、介護支援専門員研修の履修者も数名居るので、制度に明るい職員も多い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用料金などの変更時には、説明会の開催や文書で理解をいただき、意思疎通をはかりながら一方的にならないようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口や「ご意見箱」の設置、家族懇談会や家族等の来訪時など、ご家族の希望や意見を取り入れる様々な取り組みを行なっている。施設宛の封筒を用意する方法など検討している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見、提案をくみ上げる制度として「業務改善委員会」が設けられているが、定期的開催できていないのが課題になっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の代表者は定期的開催される事業所の会議に出席し、また、職員との個人面談を行って職員の希望を把握するように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で就業後に「院内勉強会」を随時開催し、希望者に参加する機会を提供している。毎年テーマを決め施設内研修を行い、全スタッフ参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム職員交流研修会を通じて、他のグループホーム職員と相互の交流を行っている。毎年数名、法人の出張として各スタッフが参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの提供を前提に、本人の施設見学や自宅での面談などを行い、既に利用しているサービス提供者からの情報も活用して、ニーズの把握を行なっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望を聴きながら、事業所としてできるサービスの範囲も家族に十分理解していただくから入居していただいている。入居後も相互の信頼が維持できるように関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所のサービスの内容と利用希望者のニーズが適合しない場合は、十分に説明して本人に相応しい他のサービスの紹介をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の「生活の場での役割」を重視した支援をその人の希望や能力を考慮しながら行なっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族でなければできないことを大切に、面会時や電話等の機会を通じて役割を担っていただいている。キーパーソンの方には本人の状況を理解していただくよう、定期的に随時に報告を行なっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得ながら、これまでに大切にしてきた様々な関係が続く様に支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の申し送りや記録と観察を通じて利用者同士の関係を把握し、家事や余暇活動の中でお互いが交流し関わりあえるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他のサービスに移行した場合に同意の下に情報提供を行なっている。可能な範囲でサービス利用時や終了後に本人との面会を行なっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービスの提供を前提に、本人の施設見学や自宅での面談などを行い、既に利用しているサービス提供者からの情報も活用して、ニーズの把握を行なっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の要望を聴きながら、事業所としてできるサービスの範囲も家族に十分理解していただきながら入居していただいている。入居後も相互の信頼が維持できるように関係作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事業所のサービスの内容と利用希望者のニーズが合わない場合は、十分に説明して本人に相応しい他のサービスの紹介をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の「生活の場での役割」を重視した支援をその人の希望や能力を考慮しながら行なっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	家族でなければできないことを大切に、面会時や電話等の機会を通じて役割を担っていただいている。キーパーソンの方には本人の状況を理解していただくよう、定期的に随時に報告を行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の協力を得ながら、これまでに大切にしてきた様々な関係が続く様に支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々の申し送りや記録と観察を通じて利用者同士の関係を把握し、家事や余暇活動の中でお互いが交流し関わりあえるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の主治医による診察のほか、希望する専門の診療科の受診支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師と医療連携の体制を敷いて、病気の予防と重度化の防止の相談に応じている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関の看護師と医療連携の体制を敷いているので、退院後の予後についてのフォローも継続性が確保されている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアは行っていませんが、重度化した場合は母体の病院や地域の施設などで対応することなど説明、文書の取り交わしをしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを掲示して、備えている。また毎年「普通救命訓練」を市の消防署で全員が受講している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練のほか、非常時の食品等を近隣施設、病院と共同で用意しており定期的に食料の試食、補充を行っている。今後も消費期限や内容を検討したうえで充実させていきたい。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴介助、普段の会話や言葉遣いにも本人のプライドやプライバシーに配慮した対応を行なっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の自信とプライドを大切にしながら、表現が困難な利用者に対しても、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿って支援しているつもりだが、時に施設側の事情で個別支援の対応を十分にできないこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の個性を大切にしながら身だしなみやおしゃれの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中にBGMを使用し、楽しんで食事していただけるようにしている。外食や季節の行事食などを取り入れている。食事の準備や片付けなども一緒に行なっている。好き嫌いを受け入れて個別にメニューを提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量はチェック表を活用して必要量の確保を支援している。また過度な体重増加傾向にある人には了承を得て主食の食器を変更するなど工夫して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施、義歯の保管も就寝時に個別に対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、一人ひとりに応じて定期随時のトイレ誘導を行なっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘対策は個別に飲食物(食物繊維の摂取)や適度な運動を基本に行なっている。緩下剤の使用は主治医や看護師に報告し、医師の指示を受け使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴回数など最低限清潔を保つように運用しているが、利用者の希望を取り入れたり、夏場など季節的な事も考慮し工夫する余地がある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠や休息は一人ひとりの生活習慣に配慮して支援している。寝具や寝衣の洗濯を定期的に行なっているが頻度など検討の余地がある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された内容が把握できるように個別のファイルで確認できるように整理して活用されている。また内容に変更が発生した際は速やかに情報を共有出来るように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	書道の支援、畑仕事、日々の役割等ご本人の楽しみをみつけて、それに沿えるように支援している。個別の活動内容も少しずつ増えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩や外気浴を行ったり、ドライブなどの外出を行っている。ご家族との外出の他にも個別の外出支援の機会も少しずつ増えている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の力量に応じて少額の現金を所持していただくことが自信につながることを家族にも説明している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が遠方の場合、電話等で、直接ご本人の気持ちが伝えられる機会を設けるなど支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所が身近にあるので、生活感がある。共有のスペースを活用して、入居者と職員が協力して季節感のある飾り付けをし、来訪者にも見ていただけるようにしている。寒暑の感じ方に個人差があるので、夏の暑い時には対応が難しい。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にもソファを配置して居場所の工夫をしている。安全上畳敷きの共有スペースが十分に活用されていないのが課題になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具やご自分の作品などに囲まれて心地よく過ごせるよう配慮している。建物の構造上夏の暑さ対策と冬の暖房管理が課題になっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなどの必要な個所に表示をして入居者の理解を助ける工夫をしている。また、危険な破損個所や状況などに共有シートを用いて対策を行っている。		